

新型放射線治療装置導入のおしらせ

放射線科部 技師長 磯田 康範

放射線治療は、手術療法、化学（薬物）療法とともに「がん」に対する3大治療法のひとつとして、進化し続けているハイテク治療です。

放射線は、細胞が分裂して増えるときに必要な遺伝子に作用して、細胞が増えないようにしたり、細胞が新しい細胞に置き換わるときに脱落する仕組みを促すことで、がん細胞を消滅させたり、少なくしたりします。放射線治療はこのような作用を利用してがんを治療します。放射線の種類にはX線、 γ （ガンマ）線、電子線などがあります。このほか、陽子線や重粒子線による治療が一部の施設で行われています。放射線の利点は、手術によって切除することなく、がんに対して治療効果を期待できることで、臓器をそのまま残したり、働きをがんの前と同じようにしておけることです。がんの種類によって放射線治療の効果は大きく異なり、治療の場所によって副作用の起こり方もさまざまです。放射線治療を単独で行われることもあります。また、薬物療法（抗がん剤）や手術治療と併用して行われることもあります。

骨に転移したがんによる痛みを和らげたり、神経を圧迫してしびれや痛みの原因になっているがんを治療するときにも行われます。

放射線治療の歴史は古く、110年前に始まったと云われています。当院での放射線治療のはじまりは、1959年（昭和34）年2月に円形病棟診療棟でコバルト照射装置にて開始しました。その後、遠隔密封小線源治療（婦人科領域がん）、続いて高エネルギーX線照射装置（リニアック6MeV）が設置されました。がん治療は増加傾向

向にあり、その中で、当院での放射線治療件数も年々増加傾向を示しています。平成26年度では、外来2,990件、入院3,623件、合計6,613件となりました（図1）。このたび既存の高エネルギーX線照射装置も古くなったことから、装置更新を迎えることになりました。更新導入した装置は、日本企業とスウェーデン企業で共同開発されたCT同室設置システムです（図2）。

日本では4台目、西日本では初のX線高エネルギー照射装置（リニアック10MeV）です。この装置の特徴は、X線エネルギーを高めることにより体内の見えない部分（体の深い場所）への高精度な照射と更にCT装置を組み合わせて、正常細胞への影響を減少させるために正確ながん細胞の位置を随時確認決定できることです。また、脳の中の細胞に対してミリ単位の誤差で治療が可能となり、その一方、体内での動く大型のがんにおいても効果的な治療が可能となりました。

放射線治療は、さまざまな専門の医療職種からなるスタッフがチームとなって行います。放射線治療医（チームの責任者）、放射線治療品質管理士（放射線量の計算や測定を行い、最適な照射方法を放射線治療医とともに決める）、放射線治療専門技師・診療放射線技師（放射線治療医の指示のもとで、実際に照射を行う）、放射線治療認定看護師（治療の間、患者さんと家族のケアを行う）などが協力して診療を行っています。これからも地域の先生方や当院の診療科の先生方との連携を深め安心・安全な高度な放射線治療を更に目指して参りたいと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。



図1. 放射線治療件数（年度別）



図2. CT同室設置システム高エネルギーX線治療装置（リニアック10MeV）

行事案内

地域連携交流会

8月18日（木）19:00～

ホテル一畑

是非、ご参加下さい。!



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地

TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

れんけいだより

vol.29
2016年 5月号

平成28年度 診療報酬改定をうけて



病院長

秦 公平

年始のご挨拶をしたと思ったら、早くも3月が来て退職者を送りだし、4月になって新年度に変わり、入職者を迎える時期となり、月日の経つ速さに改めて驚かされますが、皆様は如何お過ごしでしょうか。

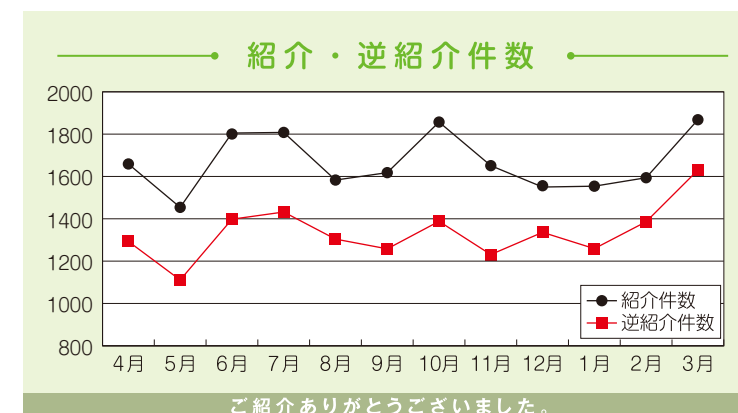
さて、今年の診療報酬改定では、急性期病院では7対1入院基本料算定の条件が変えられました。重症度・看護必要度の項目では、A項目で無菌治療室での治療や救急搬送された入院患者にスコアがついたこと、又B項目に認知症患者の看護が追加され、新たにC項目として手術を受けた患者にも手術の内容によって2～7日間スコアがつけました。しかし、条件を満たす患者数が今までは全体の15%以上いれば良かったのを、25%以上に引き上げられました。また、退院患者のうち、自宅等（この等には、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、有床診療所、居住系介護施設等が含まれます）に退院するものの割合が75%以上であったのが80%以上となりました。当院の試算ではこれらの条件をなんとかクリアできるかなというところです。今回、平均在院日数の短縮は表だってはいわれていませんが、急性期病院として上記の条件を満たすには、重症度・看護必要度の低い患者は早く転院あるいは退院をしてもらわなければならない訳で、結局平均在院日数を短縮することとなります。退院調整のところへ加算をつけたり、訪問看護や在宅医療の要件の見直しなど、急性

期病床を減らし、在宅へ移行させたいという厚生労働省の思惑が強く感じられます。しかしながら、松江圏域において、そんなに転院・退院が可能かどうか。患者さんや家族からのご意見・ご要望も増えそうです。

当院としてはこれだけ重装備、多くの職員を抱えて、救急を含め高度急性期・急性期医療を行うことを明言していますが、それには7対1入院基本料の維持が経営上必須の条件であります。

その為にも、ますます医療連携が重要になっていきます。地域医療構想が松江圏域においてどのように進んでいくかまだ分かりませんが、急性期から在宅まで、どこかが不十分であるとそこがボトルネックとなって地域医療構想は破綻しかねません。急性期から慢性期、在宅まで、どの領域にも十分に人と財政上の手当てをして、地域包括ケアが完成され、住民の方々が安心して生活できるようになることを願ってやみません。

今年度も医療情勢には色々変化が生じて来ると思いますが、昨年度同様、何卒宜しくお願い申し上げます。





神経内科

田中 康貴

H28.3.1

20年の東京生活に別れを告げふると松江に帰ってきました。患者さんの立場に立ち神経内科医として解決すべき問題に向きあっていきたいと思います。

第一麻酔科（部長）

内田 博

H28.4.1

患者さんは手術が心配です。麻酔科医は麻酔で眠っている患者さんの利益を守ります。つまり、呼吸や血圧などの循環を維持し、良い手術ができる環境をつくります。頑張ります。

神経内科（副部長）

周藤 豊

H28.4.1

4月より神経内科で勤務させて頂きます。ガイドラインに沿った標準的な医療の提供に努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

小児科

山本 慧

H28.4.1

松江赤十字病院小児科に勤務することになりました。まだまだ未熟ですが、精一杯頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

第二麻酔科（部長）

坂口 泰子

H28.3.1

患者様の満足度の高い手術麻酔を目指します。

皮膚科（部長）

和久本 圭子

H28.4.1

地域の先生方、大学病院と関連をはかりながら、より良い医療を行っていききたいと思います。

総合診療科（副部長）

岩崎 伸治

H28.4.1

サイエンス漢方処方北海道で学びました。地元島根で実践して皆様のお役に立てればと思います。

消化器内科

齋藤 宰

H28.4.1

4月より赴任しました齋藤と申します。これまで消化器疾患（特に肝臓領域）の診療を行ってきました。当院でもよろしくお願いいたします。

小児科

森山 あいさ

H28.4.1

前向きに元気よく頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

外科

高梨 俊洋

H28.4.1

松江は大好きな街であり、この地で医療に従事できることを楽しみにしております。よろしくお願致します。

心臓血管外科

許 徹一

H28.4.1

宜しくお願致します。

泌尿器科

西川 涼馬

H28.4.1

医師4年目、泌尿器科医として2年目で若輩者ではありますが、患者さんのため、地域のために精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

中島 祥晴

H28.4.1

耳鼻咽喉・頭頸部外科へ赴任しました中島祥晴と申します。医師4年目で、昨年度は鳥取大学病院で後期研修を行っておりました。宜しくお願いします。

放射線科

柿手 卓

H28.4.1

腹部画像診断を専門としております。今後ともよろしくお願いいたします。

形成外科

木村 倫子

H28.4.1

4月から形成外科に赴任して参りました。地域の方々に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

退職者

●平成27年12月31日付

総合診療科医師 石 原 俊太郎

●平成28年1月31日付

リハビリテーション科部長 笠 木 重 人

●平成28年2月29日付

医療技術部長 青 木 昭 和

神経内科医師 本 田 誠

麻酔科医師 青 木 由 紀

●平成28年3月31日付

第一外科部長 田 窪 健 二

糖尿病・内分泌内科副部長 永 澤 篤 司

神経内科副部長 深 田 育 代

小児科副部長 内 田 由 里

第一外科副部長 山 口 恵 美

小児科医師 森 里 美

形成外科医師 渡 部 雅 子

心臓血管外科医師 岡 部 亮

泌尿器科医師 岩 本 秀 人

放射線科医師 三 好 秀 直

第二麻酔科医師 安 部 翔 子

研修医紹介

高 仁 佑



島根大学医学部附属病院から来ました。研修医2年目の高仁といいます。移動してきたばかりですが早く慣れ、多く勉強していきたいです。よろしくお願いいたします。

永瀬 久仁



今年から松江日赤で研修させて頂きます。地域との関わり方を学んでいきたいと思ひます。至らない点が多いですが笑顔で頑張りますのでよろしくお願いいたします。

野坂 祐仁



初めまして。研修医1年目の野坂祐仁と申します。まだまだ未熟者ですが、新人らしく元気よく頑張りたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。

山口翔太郎



初めまして。松江赤十字病院研修医1年目の山口翔太郎と申します。医師としてまだまだわからないことがたくさんありますが、積極的に頑張ろうと思ひます。

紙谷 悠



研修医1年目の紙谷悠と申します。笑顔と一生懸命をモットーに診療に取り組ませてもらいたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

古原 聡



今年度から2年間研修させていただきます。古原聡と申します。未熟者ですが挨拶、感謝謙虚を大切にしていこうと思ひます。よろしくお願いいたします。

久留 藍子



はじめまして。研修医1年目の久留藍子と申します。誠実な態度で患者さんに寄り添い、何でも相談できるような信頼関係を築けるよう、努力致します。

足立 一真



こんにちは。鳥取大学出身の足立と申します。地元である山陰の皆様のお力になれますよう、一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします。

伊元 祐貴



島根大学出身の伊元祐貴です。未熟者ではありますが、気持ちだけは先輩諸氏に負けないよう努力していきたいと思ひます。

坂本 哲



初めまして。島根大学出身の坂本哲と申します。初心を忘れず日々努力して、積極的に頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

高鳥 幸葉



こんにちは。しっかり学び、みなさまに笑顔を与えられる医師を目指して、私も笑顔で忘れず精進していこうと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

黒田 佳那



この度初期研修医として働かせて頂きます黒田佳那と申します。大好きな松江で地域に、患者様に寄り添えるよう尽力して参ります。よろしくお願いいたします。

永野 聖



島根県浜田市よりご縁があり松江赤十字病院での勤務となりました。責任感と思いやりの心を常に忘れずにかんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中森 基貴



この地域で研修医として働けることに感謝し、全ての患者さんに安心と安全な医療を提供していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。